

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700067	事業の開始年月日	平成21年6月1日
		指定年月日	平成21年6月1日
法人名	大信産業株式会社		
事業所名	グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃん		
所在地	(〒235-0001 )		
	横浜市磯子区丸山1丁目16-5		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和4年3月31日	評価結果 市町村受理日	令和4年6月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループホームの理念である「おいしく食べて心も体も健康に」を開設当初から柱として、新鮮でおいしい食事を提供できるようにと毎日取り組んでいます。</li> <li>・季節の行事、誕生会、ドライブ等を行い、単調な生活にならないように、スタッフ同士で企画を立て実行しています。</li> <li>・医療機関と連携し、24時間体制で体調変化の早期発見に留意し、速やかな対応を心がけ、重度化を防いでいます。また、住み慣れたグループホームで最期を過ごしたいと希望なさった方には、十分な話し合いを持ち、医師、訪問看護師のもとで看取り介護を支援しています。</li> <li>・ご利用者様の尊厳を第一に考え、それぞれの思いに寄り添い、個性を大切にされた支援をこころがけ、実践しています。</li> </ul>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和4年4月21日	評価機関 評価決定日	令和4年6月8日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> グループホーム みのり 丸ちゃん・山ちゃんは、JR根岸線磯子駅よりバスで10分、最寄りのバス停から徒歩5分、また、横浜市営地下鉄ブルーライン蒔田駅より徒歩20分の住宅街にある。3階建ての2、3階部分が当事業所で、1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所となっている。道路を挟んでスーパーマーケットがあるが、新型コロナウイルス対策上、買い物に行くことを自粛している。</p> <p><b>【理念「おいしく食べて 心も体も 健康に」の実践】</b> 1階の小規模多機能型居宅介護事業所内に厨房があり、調理専門職員が献立、食材手配も行い、手作りの料理を提供している。職員は、料理を盛り付ける器にもこだわりを持ち、見た目も含めて、利用者においしく食べてもらえるように心掛けている。1ヶ月を通じて同じメニューが無く、利用者にも飽きられない工夫もしている。おせち料理、ひなまつり、クリスマスといった季節行事の特別食も同様に手作りとしている。また、誕生日会には利用者の好みのケーキを手作りで用意し、利用者にもトッピングの手伝いをしてもらっている。入所前に病気のため経口摂取に難があるとされた利用者が本人の頑張り職員との努力により、ミキサー食の提供や水分コントロールで、継続的に経口摂取ができるようになった例がある。</p> <p><b>【チームケアの実現】</b> 職員は全員が有資格者で、経験も豊富である。当事業所での勤務が長い職員も多く、お互いに気心が知れた関係でもある。利用者の日々の状態は「ケース記録」や「申し送りノート」に記載し、共有されている。また、利用者に変化があった際には、職員は、普段の記録以外に「モニタリング記録表」にも詳細に記録することとしている。これらは、ケアマネジャーによるモニタリングの際に貴重な情報となり、利用者にとって最適な介護計画が作成される仕組みにつながっている。また、現場でケアについて、職員間で気付きがあれば、すぐに声を掛け合い伝えるようにして、常に利用者優先のケアとなるように職員は心掛けている。</p>
---

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみのり
ユニット名	丸ちゃん山ちゃん

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の食生活の充実ともう一つの理念である「認め合って、支え合って、その人らしさを大切に」をスタッフで共有し、職員間の連携をはかり、ご利用者様の個性を尊重し、ケアにつなげています。	理念は開所時に作成され、事務所に掲示し職員に周知されている。理念の一つである「おいしく食べて心も体も健康に」の実現に向けて、職員は、事業所の生活において「食」が利用者にとって大きな楽しみであると意識している。行事食では季節感を味わってもらい、見た目もおいしく見えるように器へのこだわりを持ち、日々の食事を提供している。魚料理をミキサー食で提供する際に、ミキサーにかけた状態で提供するのではなく、魚の形に成形するという職員のアイデアで利用者の食が進むようになった例もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者様は、地元の方も多く、餅つき大会、夏祭り、敬老会に参加し、親しくしていた方に声がかかり交流があったが、新型コロナウイルスの影響で、行事が中止になっている。	丸山第一町内会に加入している。新型コロナにより地域行事は全て中止となっているが、回覧板で地域情報は入手している。また、町内会副会長とは折に触れ情報交換をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域との交流の際に、日頃のケアの中から得た事等を具体的に発信し、地域の方々が気軽に訪問して、相談窓口となる様に努めている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に1回、運営推進会議を開き、近々の活動状況をお伝えし、地域の方、ご家族から出された意見やアドバイスを伺い、サービスの向上に役立っています。※運営推進会議は新型コロナウイルスの影響で実施できていない。</p>	<p>今年度は全て書面開催とした。報告書は従来出席者であった地域包括支援センター職員、町内会副会長、民生委員、磯子区高齢・障害支援課に郵送している。新型コロナがやや鎮静化した昨年12月に、地域包括支援センター職員と町内会副会長とで、今後の運営推進会議について協議する場を持った。その際に、傾聴や裁縫のボランティア紹介があり、新型コロナ終息後に来所してもらう予定になっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>折に触れ、電話連絡等で、地域全体の状況や近隣の町内会の情報等を伺って、ご指導をいただいています。空室情報を共有し、新入居に繋げています。</p>	<p>高齢・障害支援課には運営推進会議報告書を郵送している。新型コロナ関連で、PCRや抗原検査キットの支給を受けている。感染症対策等の研修の案内もあるが、外部での集合研修であったので、参加を見送っている。利用者に生活保護受給者がいるので、生活支援課とは定期的に連絡を取り合い、利用者の状況報告を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないと決められていますが、認知症の進行でやむをえず、検討しなければならぬ時は身体拘束（施錠、ベルト、サイドレール）の説明と同意を家族からいただき、必要な時、必要でない時を判断し、対応できるようにミーティングで話し合いをします。	「身体的拘束適正化に関する指針」を策定し、フロアミーティングの中で「身体的拘束適正化委員会」を3か月に1回開催している。現在、身体拘束の対象者はいない。利用者はエレベーターを利用して自由に各階を歩き来している。帰宅願望がある利用者には、話を聞いたり、何かお手伝いをお願いしたり、場所を変えてみたりして気分転換を図ってもらうように対応している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修をスタッフもうける機会が増え、意識が高まりつつあります。施設内でも何気ない言動が虐待にならないか、お互いに注意をはらっています。	「身体的拘束適正化委員会」の中で、虐待防止についての研修や意見交換を行っている。職員が精神的にイライラすることが不適切なケアにつながることを周知し、そうなる前に職員がお互いに声を掛け合い注意するようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が各フロアーにいらっしゃり、制度についての知識が浸透しつつあります。必要とおもわれる方、関心をもたれた方には、制度の説明、内容等をお伝えしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を声にだして読みながら、ひとつひとつ説明をし、納得いただいています。契約締結後も家族にホームでの様子を伝えて、話しやすい関係ができるようにつとめています。		

10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見ボックスを設置して、家族や関係者から頂いた意見や要望をミーティングにあげて、意見を出し合い、改善すべき点は直していき、記録に残します。</p>	<p>現在は、新型コロナのため面接を中止している。昨年秋ごろに鎮静化した時には、制限付きの面会を実施した。LINEによるビデオ通話も利用者が混乱しないように工夫して実施し、利用者と家族との電話は希望があれば対応している。家族への便りは、ケアマネジャーが頻繁に利用者の近況を報告している。海外にいる家族にもメールで情報発信している。家族よりの意見、要望は、面会（時間・方法）に関するものが多い。</p>	
----	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務の合間で意見、情報の交換を行い、月に1回フロアミーティングで議題にあげて皆で検討します。	毎月開催する「フロアミーティング」で職員の意見を聞いている。人手不足で余裕をもって勤務に当たれないとの意見があった際に、管理者は速やかに法人と交渉し、人材の補充を行っている。代表者や管理者は、職員の意見や提案を日常的に聞いて、運営に反映させている。例えば、利用者のケアについては、表面に現れた言動だけから判断せず、その原因や背景をしっかりと掘り下げるべきであるという職員の意見を大切にし、ケアの方針を決めている。レクリエーションについては、ドライブ、季節の作品作り等自主的に職員が取り組んでいる。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場を目指して努力や実績が給与、役職等に反映できるようにしています。	年2回、人事考課の面談を実施している。管理者は働きやすい環境作りに留意し、何でも意見を言い合えるように心掛けている。法人のキャリアパス制度における各等級で要求される要件を明確に示し、職員の成長を促している。国家資格に対しては、研修受講料の半額を法人が負担し、資格手当が支給される。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員のシフトを作る時は個々の希望を考慮しながら組み、働きやすい環境にして、スキルアップのための研修は積極的に参加できるようにバックアップしています。	キャリアパス制度にて各等級で必須の研修が明示されている。認知症介護実践者研修等、法人が指定する研修受講料の半額は法人負担となっている。管理者は、介護者主体のケアになっていないか職員に話をし、常に利用者主体のケアを行うように指導している。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会に加入し、勉強会や他のグループホームとの交換実習には参加できていない。同法人内での情報交換は日頃から活発に行われています。</p>		
----	--	--	--	--	--



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しくいらした場所が安心できる所だと思っていただけるように、お声かけを行ったり、お話をじっくりと伺い不安な要素を取り除く様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が納得して入居を決められる様に、迷っていることや、不安なことが解消されるように、話し合いの機会を設けたり電話で連絡を取り合ったりして信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常生活状況を伺い、何が必要とされているか見極め、情報収集に努め、ケアの方針を決めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの能力に応じて、できる事を大切にし、ご利用者様と職員が共に支え合う関係が築けるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望を伺ったうえで、ご利用者様とご家族の良い繋がりが保てる様に、季節の行事、運営推進会議等へ参加していただき、ご家族と職員が協力してご利用者様を支えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の方が多くこともあり、入居前に利用なさっていた病院とのつながりを持っていますが、新型コロナウイルスの影響で、制限が出てきています。	入所前のかかりつけ医を受診している利用者がいる。事業所での生活が長い利用者も多く、事業所が安心できる「家」であり、馴染みの場所となっている。開所時より生活している利用者は、新入職者のインストラクターとして、掃除の仕方等を教えている。調理の得意な利用者は、味噌汁作りの手伝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で役割分担を決めたり、時にはひとつのことに皆でかかわったりしながら、よりよい関係性を築くようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、他施設へ移られた方のその後の様子をご家族から知らせて頂いたり、移られた入院先や施設との情報交換もおこなっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の思い、意向を伺い、出来る限りこれにそえる様に努め、介護計画変更時に記載して全職員が把握できる様にし、また、これまでの言動等から類推し思いや意向にそえる様に検討・実行を行っています。	利用者との日常のコミュニケーションを通じて思いを把握し、アセスメントシートに記載し職員間で共有している。発語の難しい利用者とは、職員のケアに対する表情を見て、そのケアで良かったのかどうかを判断するようにしている。利用者の反応に何か変化があった場合には「申し送りノート」に記載し、情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のファイルがいつでも手に取れる様、スタッフルームに保管し、全職員がご利用者様の生活歴、生活環境を把握し、日々のケアに活かし、其々の個性に合った対応を行い、尊厳を大切にされたケアに繋がっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝夕の申し送り、申し送り帳、ミーティング等で、一日の様子、ADL、新しい発見、利用者さまのさりげない言葉を、記録に残し職員全員が共有・把握出来る様に努めています。		

26	13	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング        本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>利用者さま、ご家族の思いや意向を伺い、現状にそくした暮らし、ケアの方向を把握し、医療職等の見解を取り入れ介護計画を作成し、日々個人記録にも載せ、ケアに反映させる様にし、モニタリングは3か月/1回を基本として行っています。</p>	<p>アセスメントは、入所時に利用者及び家族も交え実施する。その後も利用者に体調変化があった際には、取り直しをしている。初回の「居宅サービス計画書」は1ヶ月で見直しを行い、その後は、3か月毎のモニタリング時に見直しを実施している。利用者毎の「ケース記録」に計画書のサービス内容が転記されており、職員が常に計画書の内容を意識してケア出来るように工夫されている。利用者には何か変化があった際にはケース記録以外に「モニタリング記録表」にも記載し、ケアマネジャーのモニタリングの情報として活用されている。また、利用者が重篤な状況になった場合は、「今後の支援についてのカンファレンス」を協力医、家族も同席の上、開催し、どのようなケアを行うかを医師の意見、家族の要望も取り入れた形で協議している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映        日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画が分かり易く記載された個別記録に、日々の様子や行ったケアの実践・結果等を記入し、職員間の情報共有を行い、ケアや介護計画の見直しに役立てています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に限らず、他施設との交流、連携をはかり、多様化するニーズにおこたえできるようにしています。※他施設との交流は、新型コロナウイルスの影響で制限あり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響、ご家族の高齢化もあり、実施できていない。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の通院を希望なさる方には継続して受診できるように協力し、受診時の状況、処方薬をきちんと把握し、ご利用者様の状態の情報提供をおこなっています。	入所前のかかりつけ医を継続している利用者以外は、3か所の協力医療機関による月2回の訪問診療を受診している。訪問歯科は契約制だが、現在は新型コロナウイルスのため義歯破損等の緊急時以外は来所を見合わせている。訪問看護師は、同一法人の訪問看護ステーションより毎週1回来所し利用者の健康管理を行っている。家族対応の外部受診の際に、家族の要望があれば、承諾の上、利用者の現状に関する情報を文章にて伝えている。受診結果は、家族から聞き取り、「ケース記録」と「申し送りノート」に記載し、共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と訪問看護師の信頼関係ができており、普段の生活の中での小さな変化や気づきを伝えて迅速な対応、指示を受けています。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院となった場合は入院先の主治医と連携をとり、時には直接お会いして退院後の生活が安心して送れる様に、指導、助言をいただいています。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に関する施設の方針をお話し、段階を経て、ご家族、医師、看護師で話し合いをし、同意が得られたときは看取り介護を行えるようにしています。	入所時に「看取りに関する指針」を説明し、医師が終末期と判断した時点で、「看取り介護についての同意書」を取り交わしている。その上で、「看取り介護計画書」を作成し、看取りケアに入る。今年度の看取りはなかった。ベテラン職員が多く、看取り介護体制は整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム開設からの職員もいて、ご利用様急変や事故発生時の対応には経験を積んできていますが、今後もミーティングや研修を通して実践力を身に付け、経験の浅いスタッフに指導ができるようにしていきます。			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に、ご利用様が安全に避難できるよう留意し、地域の方にも、協力をお願いします。但し、新型コロナウイルスの影響で、避難訓練は、令和4年1月に、1回のみ実施しました。	今年1月に日中想定で避難訓練を利用者も参加の上、実施している。新任の職員に対し、消火器のある場所、火災報知器、火災受信盤の設置場所についての周知が不足しており、初期消火に至るまで時間がかかったため、改善を進めている。また、日中想定だけでなく、夜間想定での避難訓練も実施を検討している。備蓄は食料、水、カセットコンロ、ヘルメット等常備している。	今年度は1回の避難訓練となっています。既に検討されていますが、夜間想定での訓練も実施し、課題の抽出を行い、事業所の安全性が更に向上することを期待します。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、それぞれのプライバシー、人格を尊重し、心のこもった丁寧な声掛けを行い、入浴や排泄の際は、ご本人の意思を大切にして支援を行っています。	管理者は利用者の自尊心を気遣うように指導している。利用者への呼びかけは苗字に「さん」付けを原則としているが、家族からの希望で、利用者が心地よく感じるものであれば、名前や「ちゃん」付けで声掛けをすることもある。管理者は、居室の出入り口は個人宅の玄関と同じと考え、常に閉めるように、職員に奨励している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の気持ちに寄り添い、その思いや希望を受け止め、ご自身に物事を決めていただけるようにしています。また、ご自身の思いや希望を表しにくい場合は、日常の言動から職員が推測しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間、日中の活動時間はだいたい決めてありますが、参加は本人の意思で決め、その日の体調やペースに合わせて生活できるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に服装はご本人に好きなものを選んでいただき、洗濯はこまめにし、整髪、髭剃り等常に、清潔、整容を心がけています。		



40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>美味しい食事を皆で楽しくできるように、それぞれの咀嚼する力に合わせて、食材に切れ目を入れたり、刻みにする等工夫し、配膳、盛り付け、食器の片づけを職員と一緒にを行い、手際の良さを発揮されています。</p>	<p>調理専門職員が主菜、副菜の献立、食材調達、調理を行い、全て手作りとしている。職員は、ご飯を炊き、汁物を作っている。メニューが卵料理の時（週に4回）は、各階で調理をしている。誕生日のケーキも手作りで、職員が作ったカードを渡し、お祝いをしている。行事食といった特別食も全て手作りで季節感を味わってもらうように心掛けている。おやつは、利用者と職員とが一緒に作ることも多く、利用者の楽しみの一つになっている。寿司の出前の要望はあるが、「生もの」のリスク等勘案し、今は見送っている。</p>	
----	----	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量を必ず記録に残し、食が進まない方には好きなものを食事時間以外に召し上がっていただいたり、水分摂取が少ない方には好みの飲み物をすすめた上で、栄養・水分確保が不足する場合は医師、看護師に相談します。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、おひとりずつに合わせた口腔ケアを行い、必要な方は、訪問歯科の往診を依頼し、治療や助言をいただいています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターン、習慣を職員が把握し、タイミングを見計らって誘導をし、トイレでの排泄を第一に考え、清潔に過ごしていただくように支援をしています。	「排泄チェック表」にて排泄パターンを把握し、声掛けによってトイレ誘導している。終日布パンツで過ごす利用者もいる。夜間は、睡眠優先で、ベッド上でパッド交換する方や、定時にトイレ誘導する方と個々の利用者の状況により対応している。転倒防止の観点からポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、体操で体を動かし、十時のお茶の際は、ご本人の好みの飲み物を飲んでいただき、排泄表で排便の有無を確認し、下剤を処方されている方は服薬していただいています。		

45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則として週2回の入浴を行い、体調、身体状況に合わせて、シャワー浴をとりいれたりし、入浴を楽しんでいただけるように工夫しています。	原則週2回の入浴で時間帯は午前、午後どちらでも対応している。利用者のペースを大事にし、入浴時の職員とのコミュニケーションも楽しんでもらっている。季節の柚子湯は利用者に好評である。お気に入りの入浴剤を使う方もいる。同性介助の希望はなく、入浴を好まない方には担当や、声掛けのタイミングを変えてみるが、決して無理強いはしない。	
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は特にきめず、ご利用者様のリズムに合わせ、必要な方には、昼寝も取り入れています。リネンは清潔なものを使用し、部屋の温度、湿度、照明にも気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬の目的、用法、用量を薬情報提供書で確認し、把握し、服薬時には、ご本人に確認していただき、職員二人体制で、服薬チェック表を用い、目視して服薬していただいています。薬の変更があった時は申し送り帳に記載し、職員全員が把握できる様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好みを把握し、それぞれが楽しく過ごせる様に、レクリエーション、外出支援を行い、役割分担を持つことによって張り合いのある暮らしが出来る様にしています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、新型コロナウイルスの影響で、対策をきちんととったドライブ（車から外には下りない）を行っています。ご家族、地域の方とも、面会禁止の為、協力しながらの外出支援はできていません。	新型コロナのため、一切の散歩を中止している。花見や紅葉狩りと季節感を感じてもらい、気分転換を図るためにもドライブに出かけている。また、職員の配置によっては当日に企画したドライブを行うこともある。散歩が出来ないので、代わりに室内で、職員発案のオリジナル体操や廊下を使っての歩行運動を行っている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお小遣いを所持し、管理している方も数名いらっしゃるが、実際には使用していない。		
----	--	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたくなった時や、電話での連絡が必要な時は、いつでも利用できるようにしています。FAXで簡単な文を書いて送る方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適な共同空間で、ご利用者様が安心して居心地よく過ごせる様に工夫し、各部屋の掃除をスタッフと一緒に、季節に合わせた飾り等をみんなで力を合わせて作り、食堂やリビングに飾っています。	利用者と職員とが共同で作成した季節感あふれる貼り絵やちぎり絵の作品を壁に飾っている。新型コロナで初詣に行けなかったのも、リビング内に「みのり神社」を紙細工で作し、おはじきを賽銭に見立ててお参りをした。管理者は、座席に関して、なるべく利用者の環境は変えない方が良いので食堂の席は固定にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の好きな場所でご自身のペースで過ごしたり、時には皆さんと談話して楽しめる様に環境を整え、職員が声掛けを行い、ご本人の希望に応じた場所を勧められる様に工夫しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、ご利用者様に馴染みの深い物、使い慣れた家具、飾っておきたい物等をご持参いただき、好みに合った物の中で安心して過ごしていただけるようにしています。	事業所による備え付けは、エアコン、照明、クローゼット、ベッド、防災カーテンとなっている。利用者は自宅の自室のようにレイアウトし、自分の空間を楽しんでいる。壁に誕生日会でもらった職員手作りのカードが貼ってある居室が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋のドアには見えやすいネームプレートを掛け、トイレ、浴室等はわかりやすいように表示して迷わず移動できるようにし、ご利用者様の力を活かしています。		

# 目標達成計画

事業所名 グループホームみのり丸ちゃん・山ちゃん

作成日 令和4年6月15日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催及びご家族様の参加	新型コロナウイルスの為に、書面で行っていた運営推進会議を事業所で開催する。ご家族様に、運営推進会議への参加をお願いし、運営に関するご意見等をいただき、協力をお願いする。	新型コロナウイルス感染状況を考慮しつつ、運営推進会議を2か月に一回開催する。ご家族様に、電話、書面等を通じ、運営推進会議への参加をお願いする。	12か月
2	49	日常的な外出支援	新型コロナウイルス対策をとった外出支援を行う。	近隣の公園への散歩を復活する。定期的なドライブを計画し、実行する。	12ヶ月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。